

令和4年度 第2回藤沢市図書館協議会 会議録

日 時 2022年(令和4年)8月4日(木)
午後3時から午後4時30分まで

場 所 Zoom 会議

出席者 委員側 7名
委員長 長谷川 豊祐
委 員 中田 孝信, 多鹿 実江子, 日下部 和美, 冨田 唯里,
山田 勉, 藤平 美香子

図書館側 7名

総合市民図書館	館長	市川 雅之
	主幹	小泉 謙二
	館長補佐	瀬戸 あかね
	館長補佐	木村 佐智子
	館長補佐	佐々木 彩子
	主任	井上 雄貴
	担当	加藤 拓実

NPO 法人市民の図書館・ふじさわ

事務局長	河村 融
南市民図書館責任者	五十嵐 真美
辻堂市民図書館責任者	小倉 由美子
湘南大庭市民図書館責任者	大賀 慶子

1. 開会
2. 議題
 - (1) 議会報告について
 - (2) 南市民図書館再整備事業について
 - (3) 5月～6月の事業報告について
 - (4) その他

事務局 (佐々木補佐) 定刻になりましたのでこれより令和4年度第2回藤沢市図書館協議会を開催します。開会に先立ちまして館長の市川よりご挨拶申し上げます。

事務局 (市川館長) 本日は令和4年度第2回図書館協議会にご出席いただきありがとうございます。また、日頃は本市図書館運営にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。本日は藤沢市内のコ

コロナ感染状況から判断しましてオンライン会議としました。さて、第34期図書館協議会委員の皆様におかれましては、2年の任期の今日が最後の協議会になります。この2年間の会議については、全8回のうち書面やオンラインでの会議が5回あり、コロナウィルスに翻弄された2年間でした。この間、藤沢市図書館としては念願の図書室オンライン化を11月開始に向け準備を進めています。また新しい図書サービスの提供として電子図書サービスも10月に開始いたします。また南市民図書館再整備については、新しい図書館としての方向性が見えてきたところです。これより会議を始めますが、皆様におかれましては今後とも藤沢市図書館を温かく見守っていただきご理解とご協力をお願いいたします。

- 事務局
(佐々木補佐) それでは協議会を開催いたします。議事の進行については長谷川委員長をお願いいたします。
- 長谷川委員長 それでは令和4年度第2回藤沢市図書館協議会を開催いたします。会議の成立条件について事務局からお願いいたします。
- 事務局
(佐々木補佐) 事務局から会議成立のご報告をいたします。本会議の成立につきましては、「藤沢市図書館に関する規則」第20条第2項に「協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない」と規定されております。本日は7人全員のご参加いただいておりますので、本会議が成立していることを、ご報告いたします。なお、傍聴者はありません。
- 長谷川委員長 次第に入る前に、前回の議事録について事務局からお願いいたします。
- 事務局
(佐々木補佐) 前回の議事録について何かご意見があればご発言いただき、特にご意見等ないようであればこの場で議事録を確定とさせていただきます。
- 長谷川委員長 議事録について何かご意見ありますでしょうか。富田委員どうぞ。
- 富田委員 10ページの私の名前の漢字が誤っているので修正をお願いいたします。
- 長谷川委員長 他よろしいでしょうか。それではこれで前回の議事録については確定とさせていただきます。富田委員の名前は修正いただくということでよろしくをお願いいたします。それでは次第

に入りたいと思います。次第の1「議会報告について」お願いいたします。

事務局
(市川館長)

前回は行われた図書館協議会以降に開催された藤沢市議会について説明いたします。6月21日の本会議において北橋議員から「藤沢市内の図書館について」という件名で一般質問がありました。内容は大きく分けて2つの要旨になっています。一つは市立図書館について、もう一つは学校図書館についてです。生涯学習部としまして市立図書館について答弁しています。質問の内容は南市民図書館再整備に向けた検討状況についてと、図書室のオンライン化及び電子図書サービスの導入についての2点でした。南市民図書館再整備に向けた検討状況については、北橋議員が川口市立の図書館を視察されて、その時にビジネス支援を行っていたということ踏まえての質問になっております。答弁としては、電子図書サービスの活用や各種データベースの充実など、DXの取り組みを進めるなかで、ビジネス支援も含め、関係各課と連携を図りながら検討を進めていくという回答をしています。次の図書室のオンライン化及び電子図書サービスの導入については、新たなサービスについての進捗状況と学校図書館との連携という質問になっていました。答弁としては、図書室のオンライン化、電子図書サービスの導入はいつでも、どこでも、だれでも、なんでもという藤沢市図書館の運営方針を実現する重要な事業と考えており、それぞれサービス開始に向け資材の調達や職員研修を進めているところだと回答しています。また学校との連携については、電子図書サービスが小中学校での朝読書や調べ学習で活用することができないか検討しているという回答をしています。以上が一般質問についてです。

次に、6月29日に藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会がありました。ここでは南市民図書館再整備を含む生活文化拠点再整備事業についての基本構想の最終案等の報告がされました。最終の基本構想案としてはSDGsの視点やコンベンション機能またはアートスペース複合化の検討などについて追記されています。この特別委員会の中で、委員から南市民図書館は利用しやすい施設になっているが、複合化施設の中に入り閲覧席の広さなどはどのようにしていくのかという質問がありました。答弁としては、現在の南市民図書館は利便性がよく、多くの人に利用していただいています。利用状況の把握または利用者の意見を伺いながら閲覧席の広さなどを検討していくという回答をしています。議会報告については以上になります。

長谷川委員長 説明ありがとうございます。何かご意見ご感想ある方いらっしゃいますか。中田委員どうぞ。

中田委員 私もホームページで藤沢都心部再生公共施設再整備特別委員会を探しまして、正式な会議録は見れていませんが、委員会の副議長である大矢徹市議会議員のホームページに内容の抜粋がありました。南市民図書館については提案事業者が述べ7業者あり、2つの提案をされていました。1つ目の図書館には日常的な集客力があり、賑わいの創出という点で大きな存在になりうるというのは良いのですが、次のほうが問題であり、来てほしい人をターゲットにしたコンセプトを定めて計画することが大切と事業者から提案されたという報告が出ています。藤沢市民会館等再整備基本構想の中で、図書館は誰でも、いつでも、なんでもというコンセプトがあり、その中で来てほしい人をターゲットにするのはおかしいのではないかというのが感想です。ホームページは抜粋であったので、実際の会議ではどのような内容が述べられていたかお教えていただければと思います。

事務局
(市川館長) ターゲティングという部分については、今回この事業は官民連携で行っていくという方向性であり、いくつかの事業者から複合化に向けての提案をいただきました。その中の1つの事業者が提案したことであり、それが市としての方針というわけではありません。あくまでも図書館や市民会館など、新たな形を作っていくのであればこのようなやり方もあるという民間事業者としての提案であり、いくつもある提案の内の1つです。図書館としても運営の方針の中でいつでも、どこでも、だれでも、なんでもということを1番大事にしながら図書館運営を行っていますので、ある程度ターゲットを絞っていくということはありませんのでご安心いただきたいと思います。

中田委員 ありがとうございます。大矢徹さんという副議長の人がいくつも出た提案の中でこの2項目を書かれたというのが少し怖いなと思いました。もちろん図書館の方針でやっていただければと思います。

長谷川委員長 ありがとうございます。市議の方の考えと事業者の考え、それと図書館の考えがどのように摺合せていくのかが大きな話題だと思います。このようなときに図書館はいつでも、どこでも、だれでも、なんでもというスタンスですので、図書館協議会としても南市民図書館への意見を出す中で、もう一度図書館の

基本的なことについて協議会としてはここを大切にしたいということをもう一度中田委員から言っていただければと思います。他の委員の方はよろしいでしょうか。それでは次第の2「南市民図書館再整備事業について」事務局から説明をお願いいたします。

事務局
(小泉主幹)

南市民図書館再整備事業について説明させていただきます。現在、南市民図書館再整備事業については生活文化再整備事業として、新しい複合化施設の完成を目指して公民連携で再整備を行っていきます。令和5年度中にマスタープランという生活文化拠点再整備基本計画を作成、そのプランを受けて民間企業による設計工事が行われ、令和11年度の供用開始を目指しております。今回複合化施設のビジョンを考えていくうえで、複合化を構成する施設の課で生活文化拠点再整備プロジェクトワーキンググループをとっているを行っています。各課代表で私が出席していますが、昨日第7回目のワーキングが開催されました。ここでは「ビジョン」という街の再生の活性化に対して生み出したいエリアの価値などを話し合ったり、実際に藤沢市がやりたいことはどのようなことなのかを明確にして、今後民間事業者のアイデアを最大限引き出すということを主眼に置いています。また「コンテンツ」という各課の機能とかサービスの整理を行い、複合化施設の機能の集約の意義を明確にしています。単に施設が集約した箱ものということではなく、今後は一つ一つの課が本当にやりたいことや、それは本当に必要なのかを議論し、その中から膨らましていくという考え方で議論を行っています。話し合いで出てきたキーワードとして、これからの子どもたちであるとか、市民が訪れた時のきっかけの場であったり、種まきという言葉がありました。種をまいて発育して収穫、それをまた種をまくといのように、例えば若いアーティストを藤沢市の施設で育てて、外で活躍して、それでまた藤沢市に貢献してもらうなど、そういう循環型と施設で何か新しいことに出会える、発見できるというキーワードをもとに今後ビジョンを組み立てていく予定です。一応案の案ですが「藤沢みらいファームここから始まる未来への種まき」という大きなテーマを主題に、これからサブテーマを考えていくという形になります。いろいろな課が集まっているので、本当にそのコンテンツは必要なのか、違う課から見て本当にそれは必要なのかなど、各課お互いに確認をしあいながら進めているところです。最終的には要求水準書を作成し公民連携作業を行うという流れになります。この市の動きと並行しましてもう一つ総合市民図書館の中でこれからの図書館検討委員会というものを進めています。

す。こちらは図書館としての考え方をまとめるものであり、2つの検討項目と5つの視点というのをそこで話し合いました。2つの検討項目としては、今後4市民図書館11市民図書室の在り方と、南市民図書館再整備についてになります。5つ視点としては、各図書館の老朽化に対する対応ということです。2つ目の視点として市民との共同を重視したNPO法人市民の図書館ふじさわによる運営の堅守をしていきたいということ。それと市民図書室オンライン化による図書サービスの向上効果について。4番目が複合化施設としての南市民図書館の役割、複合化する施設との連携をどのようにしていくか。5番目の視点がICタグの導入ですが、DXを重視した図書館運営が重要になってくるという形で話し合いました。今後人口減少、少子高齢化社会の到来などを考慮する必要があり、また私たちの生活のICT化もどんどん進んでいくことが考えられます。10年、20年、30年先を考えていくと、時代に即した図書館運営をやっていくことが不可欠であると考えています。またあと15年たつと総合市民図書館も築50年になりますので、数年後には建築時期が同じの湘南台文化センターを含めた湘南台地区の再整備計画が出てくるかと考えられます。辻堂市民図書館、湘南大庭市民図書館も一定の建築年が経過しておりますので、施設の在り方を考えていかなければいけないということもあります。状況の変化なども踏まえながらその前の5つの視点で南市民図書館の再整備を考えていきたいと思っております。生活文化拠点再整備事業と、総合市民図書で行うこれからの図書館運営検討委員会という2つの流れを融合して南市民図書館をどのような図書館にしていくか、どのような機能を持たせるか、どのような役割があるかなどを具体的に検討していく形になります。つきましては今後は図書館協議会などで皆様からのご意見をいただきながら進めていきたいと思っておりますのでご協力よろしくお願いたします。

長谷川委員長

ありがとうございます。客観的な議論がなされているようですけれども、この後、委員からの意見もあわせて小泉さんから個人の感想を聞かせていただきたいと思っております。ありがとうございます。それでは事前に配布した資料に基づいて委員から意見をお願いいたします。日下部委員お願いいたします。

日下部委員

この前ネットで今までの会議のことを確認したのですが、図書館のことに関しては、いくつも話し合いがあった中で、結果は出ていないのでしょうか。いつも市民会館のことなどが出ていたので、図書館に関する話し合いは特別にはされていないのか、それとも別のところでされているのかなと思いまし

た。また施設の広さが20万平方メートル、高さが10メートルぐらいになるとすると、3階建てぐらいになるのかなと思います。図書館は施設の一角になるのかそれとも1フロアになるのかななどの話し合いは全然出ていないようですが、そこはどうなっているのでしょうか。

事務局
(小泉主幹)

市民会館が中心となった別のワーキングがありまして、おそらくそちらをご覧になったのかなと思います。もちろんそちらでも結論や基本方針なども出ていますが、今後下水の浸水対策施設が入ってきまして、建物自体も一棟になるのか分棟になるのか、また全体の面積や、どの階に何が入るなどはまだ決まっていません。やはり文化財や図書館などは浸水のことを考えると上のほうがいいのではないかと、ただ利便性を考えると1階のほうがいいのではないかなど、色々な意見があります。今のところ、もう一度前回会議で決まった内容を踏まえつつ改めて考えていくという形になっています。

日下部委員

ありがとうございます。そうしますと2階、3階に出来上がることもあると思いますが、その際にエスカレーターをつけていただきたいと思います。図書館内同士で他の階に行く際には、エレベーターよりもエスカレーターのほうが使いやすいのではないかと思います。図書館の中でエスカレーターをつけていただくと、小さい子どもも大人も高齢者も行きやすいのではないかと思います。また、図書館は図書館の入り口を設置していただけたらうれしいです。これから先長いこと使うことを考えますと、そういったところも使いやすいように作っていただけたらと思います。また、小さい子どもたちが子どもの視線で探せる本棚とかフロアが総合市民図書館にもありますから、そういった子どもたちが集まってきて、お母さんたちが読み聞かせしながら本を選択できるような場所も作っていただけたらありがたいと思います。図書館は営利なものではありませんし、これから先何十年も子どもや大人たちが使うところであるならば、できたらそのような形のものも考慮していただけたらと思います。それから藤沢駅から、ヨーカドーの前からまっすぐセンターに行けるようになっていきますよね、あれももう少し伸びて藤沢駅から少しでも近いところに来ればとても便利かなと思います。そうであれば図書館だけでなく一般の方も便利ですし、もし会館で大きな行事があった時にも、そのようなところがあつたらいいかなと思います。

長谷川委員長

それはペDESTリアンデッキですね。あれとても高いのですよ。ただ本当にこういう時期でないとおの手話はできま

せんので下水の話をするのもいいのですが、ペDESTリアンデッキでそのままストレートに来れるというのはいいことだと思います。

日下部委員

下の商店街の人たちからもいろんなことがあるのではないかと思います。もし会館、大きなイベントがあり大勢集客するときにはそのようなデッキがあって、帰りは下に降りてもらって買い物して帰っていただくこともあるのかなと思います。いま駅前ところにデッキがありますが、あそこを歩くとゆらゆら揺れています。でするのでそのようなところもまとめて作っていただければ、藤沢の駅から降りて大勢の方がそこを歩いて図書館やほかの施設に行けるのではないかと思います。意見をしました。

長谷川委員長

ハード、ソフト、イメージ面ということですが、複合施設ということになると日下部委員がおっしゃったとおり、かなりイメージが膨らみますので、そういったこともイメージ膨らませてご意見いただければと思います。他の委員さんからも意見をいただいた後に、小泉さん、館長から意見をいただきたいと思いますが、その他の委員から意見はありますでしょうか。

中田委員

質問ですが、市役所内の委員会に8つの課が参加するという話でしたが、それぞれの課は本当にこの複合化施設に入りたいと思っているのでしょうか。というのも、あそこは水が出る場所というのは前回の会議でも話しましたが、図書館とかは本当にあそこに入りたがっているのかなというのがあります。今の場所は手狭ですが、倉庫自体は本庁の方にもありますし、それこそ本庁ができたときにその中にはいければよかったのと思います。もちろん入れなかったのかもしれませんが、8つの部局がみんな入ろうとして検討委員会に入っているのでしょうか。

事務局
(小泉主幹)

今回市で集まっているワーキングですが、各課を代表して1人2人参加している形です。話している中で機能を考えた場合、本当にそこで良いのかという話も出ています。今のところ市の方針としては複合化施設として各課のいいところを繋げていくという意味合いが強いので、今のところは全部の課が入るということになっているのですが、もしかしたら今後話の中で実はこの課については事務所だけとか、あとのスペースは他の課と共有するなど、そのような動きも出てくるのか

などと思います。今のところ文書館も含めて複合化施設としてやっていくという形になっております。

中田委員

複合化ということで、いろんな機能を入れようというのは市の中で出てくるとは思いますが、基本構想を読むと良いことがてんこ盛りに書いてあります。しかし実際そのようなことは無理でしょうということがあると思います。人によって静かな図書館がいいとか、にぎやかな図書館がいい、明るい図書館がいい、落ち着いた図書館がいいなどいろんな考え方があるので、全部が全部納得するわけではないでしょうけれども、いろんなことを考えると全てのスペースを使っても無理な気がします。だから市役所の検討に入っている課の中で、自分がここ違うねと思ったら辞退してもらって、他の参加する課を充実させていったほうが良いのではないかと個人的には思います。

長谷川委員長

大きな視点で見ていただけるのは大変結構だと思います。他の委員の方いかがでしょうか。藤平委員どうぞ。

藤平委員

いただいた資料でイメージ面、ハード面、ソフト面とあり、自分はイメージ面で意見を考えました。個人的には使いにくいところや不足しているところはないかなと思いましたが、ただ図書館としてはいろいろな人たちのライフスタイルやライフステージに沿ったほうが良いと思い、自分の周りの図書館ユーザーは、0歳の子から90歳の高齢者まで幅広くいたので聞いてみました。その結果として、一つは自由度の高い図書館を希望したいと思いました。先ほど中田委員がおっしゃったように、明るいのが好き、暗いのが好き、にぎやかなのが好き、静かなのが好きなどいろいろあると思います。広そうな形で出来上がると思うので、おしゃべりができるエリアとすごく静かなエリアに分ける、また読み聞かせをしたい人は声を出して読みたいと思いますし、勉強したい人は集中したいだろうし、住み分けたエリアを作っていけたらというのが一つの結論でした。子どもたちはWIFIが欲しいとか、漫画を読みたいなど様々な希望があったので、全部を叶えるのは無理でも、叶えられるかもしれないよという、ゆとりのある図書館になったらいいなと思いました。もう一つは、DXでどんどん便利になっていくと思いますが、私個人としては図書館は人と人のつながりとか、そのような温かいものを重視していたので、DXを利用することで人と人がもっとつながれるような図書館になってほしいと思います。例えば今だと映画会や読み聞かせなどは事前予約制ですが、オンラインでやってみるとか

当日参加ができるなど、いろいろな人がニーズに合わせてふらっと参加できる図書館であったら良いかなと思いました。最後に、ODAKYU湘南GATEの図書館があまりにもなじみすぎてしまっており、令和11年に新しい図書館ができることにはもっとなじんでしまうと思います。ですから日下部委員がおっしゃったようにその人たちをそのまま持っていくような現実的な道でもいいし、抽象的なイメージでもいいですけども、利用者をそこから向こうにすんなり移動させてあげることがあったら良いのではないかと思います。

長谷川委員長

ありがとうございます。かなり大きな話題が出てきていると思います。山田委員お願いします。

山田委員

いろいろな話が出てきている中で、図書館という場所は人が集う場所であり、学びということ考えたときにどの世代からも接点を取りやすいところであると考えています。その中で藤沢にあるからこそであったり、他の博物館との連携も視野に入れられているのであるならば、日本語チックでフワッとしたイメージにはなりますが、私が、私たちが藤沢で何かを学ぶだとか、何かを作るとか、そのようなきっかけを作るような起点になるものがどこかで発信されているとか、常に発信するスペースがあるとか、その連携の取り方を持っているなどが用意されていると良いと思います。やはり藤沢はたくさん世代の人たちや、多国籍の人たちも集う場所でもあるので、情報や魅力はあると思います。私が社会教育委員を通じて学んだこととして、やはり社会教育が伝えていくことの中で一番大事なことは、地域の中で地域のことが好きになったりとか、地域のことには帰属する働き方、働きかけ方など、その辺のかかわり方を提案できるものがあると、市民図書館であるという意義がより増すのではないかと感じました。

長谷川委員長

ありがとうございます。富田委員お願いします。

富田委員

複合化施設ということで、私は大和のシリウスをよく使っていますので、シリウスにある設備を使ってみたうえでの意見をお伝えできればと思います。子どもたちもよく使用していて、子どもたちにも意見を聞いたのですが、まず先ほど藤平委員がおっしゃったようにDXによって人とのつながりが薄くなってしまいかもという話がありましたが、シリウスではICタグであるため機械で貸出処理が完了できます。そのようなところは子どもからするとかっこいい、なんでこんな機械があるのという感じで面白がっており、それがやりたくて本を借

りることもあります。逆に年配の人たちは使い方がわからないなどで質問をされている方もいました。またフロアに図書館の人が少ないなということは確かに感じました。確かに人とのつながりや、窓口に行って貸し借りする際の挨拶一つとってもあるとないのでは違うのかなとか、そこでスタッフの方と顔なじみになればそこから話が膨らんでより本の世界広がるなど、機械で貸し借りができるから人との関わりが減ってしまうという、いいところもあるけれども、やはり少し悪いところもあるのかなというのが実際貸し借り機を使用して感じたことです。ただこの先の人口減少や働き手がという話になってくると、人手をかけなくても使用できるシステムというのはあったほうが良いと思います。また大和市の話にはなりますが、スーパーなどに返却ポストがあったりすると、借りた本をなかなか返しにいけないときとかも、買い物ついでに返却というのは便利だなと思います。でもポストに返すだけということで人との関わりが薄くなり、さらに図書館に行かなくてすんでしまうため、もう一度借りようというのもなくなってしまうのかなと思います。期限までに絶対に返すことができる便利な手段ではありますが、さらに借りて帰ろうということにつながるのかなと思うと、またそれも便利どころもあればさみしくなるシステムなのかなと思います。またシリウスについて子どもたちがよく言っていたのが遊び場です。有料ですが子どもたちも行きたがっており、無料は難しくてもお得な感じでちょっとで遊べるところがあると子育て世代にとってはいいのかなと思います。さらにいえばそこで子どもを遊ばせといて、親が本を見に行ければ、子育て世代の大人も時間を作りやすくなっていいのではないかと思います。安全性などの担保も難しいのでハードルは高いのでしょうけれども、そのようなものもあったら良いのではないかなと思いました。あとシリウスでは5階までエスカレーターで行ける造りであり、真ん中にエスカレーターがあると行きやすいと感じるので、何階かに分かれるときは、そのような移動手段があると他の階に行きやすく、いろんな本を取りにいけるのかなと思います。あとは子どもたちはおすすめの本を診断してくれる機械があったらいいのにと言っていました。例えば今回借りた本に対して、次回はこのような本はどうですかと紹介してくれるなど、AIなどを活用すればそのようなシステムも出てくるのかなと思います。何か借りたいけれどもこの本がつまらなかったらどうしよう、好みではなかったらどうしよう、実は怖い本であったらどうしようとかがあるとと思うので、子どもたちはそのような機械があったらいいなということをおっしゃっていました。

長谷川委員長 ありがとうございます。富田委員のお子さんは図書館を使われていて、シリウスにも行ったことがあるということで、親御さんも含むヘビーユーザーということですね。シリウスに人がいないのは人件費の問題であって、とにかく人件費をカットしなければいけませんから。多鹿委員どうでしょうか。

多鹿委員 複合化する施設ということで物理的な面でいろいろお話が出ていたと思いますが、それからはそれてしまうかもしれませんが **DX** ということで、図書館や、市民ギャラリー、文書館など、いろんな施設が協議して入っていくと思います。学校としては図書室から意識しないで図書館の本を借りることができるというところ。それから文書館も教員が教材研究をするときに使いますが、図書館の本が検索できるようになり、そこから教員が子どもたちに教えるために文書館のほうも複合化という意味で簡単に検索できたり、子どもたちもそれができたりなど、あとは市民ギャラリーで何か美術の展示がありそれが簡単に検索できたりするなど、複合ということでそのような取り組みが将来的にできている拠点となれば学校としても助かると思いました。

長谷川委員長 ありがとうございます。では私から、私はイメージ、ソフト、ハードということで皆さんがおっしゃっていたように、図書館自体も皆さんでイメージしているものが異なります。図書館というもののスタンダードができていない中で複合化をするというので、いろいろイメージが広がりすぎてしまうのがあると思います。まずは多鹿委員からも出ていましたけれども、初等教育では **GIGA** スクール構想をやっていて、読書推進とかがあります。そのあと中等教育、高等教育を経て社会人になったときの図書館活用で、今までやっていたような一人一台端末や、ポプラディアを見るだとか、電子書籍を見るというのが社会人になるとできなくなる。いわゆる社会人になった後の図書館活用というのが寒いところがあります。具体的に言えば、今回データベースが入るということですが、朝日、毎日、日経、読売の4つのデータベースが図書館では紙媒体での縮冊版が入っているわけですが、データベースが入って自由に使えるようになるのか、データベースの導入の話があってもこのような話が入らないと困るなというところがあります。あと新聞のデータベースというものを家から見ることであり、**G-Search** というサービスがあります。登録すると新聞の記事を一件200円程度で購入することができるというサービスです。これは従量制なので使った分だけを払うもので、

これを個人で使っています。結局ターゲティングみたいな話をしていましたが、私は調査する住人ということを重視しています。調査する住人にとっては、やはりこういうデータベースは必要になりますし、洋書の本も必要になりますし、外国の学术论文も本当は必要になります。このようなものは今は公共図書館からは入手することができません。サービスとして提供されていないからです。サービスとして提供されていないので要求はないのかということそのようなことはありません。皆個人で買ってやっています。このようなところで漏れている図書館のいつでも、どこでも、だれにでも、なんでも提供するということにおいて、図書館としての基本的な機能がまだなされていない。これをなされていないまま複合化施設の中に図書館を持っていくということについて危惧を抱いています。公共図書館は役にたたないと言っている人たちがいますが、この人たちは直接は言わないので表立ってはいません。ですのでこのような機会に考えていければと思います。あと私は図書館笑顔プロジェクトというのを退職した人や、情報関係の人たちと数人で勉強会をしており、その中でいくつか論文を書いています。それは未来の図書館であったり、データベースを使ったり、それと地域資料のデジタル化が重要だということを図書館に勤めていた人が言っていました。教材研究をするときに文書館が持っている資料が普通に使用することができるようにすることが、やはり抜け落ちた点であると思います。小学校で GIGA スクールをやるということになり、皆がタブレットを持ったのに文書館で持っている資料を簡単に見ることができていない。これは多鹿委員からも要望が出されていましたが、私は本当にこれをやっていただきたいと思います。もうひとつは情報リテラシーというものについて、情報を探す、情報を入手する、発信するという能力は誰でも必要です。よく企業に勤めている方はおっしゃるのですが、私はそのような根拠資料がなくても書ければいいのだ、入手するのが面倒くさいといいます。でも、やはりそのようなものは必要になってきます。家庭経営という言葉があるそうです。家庭のことは主婦とか一人暮らしの人は自分で経営していくわけです。そうすると自分の家に DX 化をするにはどのようにしたらいいのかなど、皆新しいことを導入しなければなりません。行政は新しい制度をどんどん出してきました。それについても調査研究をしなければ家庭経営は成り立ちません。とすると、調査する住人はいないと皆さん言いますが、実は皆が調査する住人であるということ、図書館がリテラシーの支援をする、図書館員が探してあげるのではなく、皆が探せるようになるということ、例えば先ほど富田委員がシリウスのお話をさ

れている中で、お子さんからおすすめ本を教えてくれるのがあればいいなということがありましたけれども、別にこれであれば Amazon にその書名を入れれば、Amazon がおすすめを出してくれます。それは超優れた AI 機能を使っておすすめしてくれるわけですので、こういったものを図書館が作る必要はないのではないかと考えています。やはりこのようなことはアウトソースで行うべきことであり、新技術を図書館は導入して使えるようにすることができます。こんな技術があるので皆さん自分でできますよ、自分で探していく中で苦労してやっと手に入れたものが自分のものになり、その途中でいろんな発見があるということです。図書館は地域資料のデジタル化とデータベースを提供すること、リテラシー支援をすることの3つが最低限の基本的なサービスであると思います。これできていない状態で複合化ということになったときに、どのような議論をしているのか、例えば学習室の話がありますけれども、複合化してしまえば学習室もその中でできるようになるので、図書館でそのような施設を持つ必要はありません。おしゃべりをしたい場合はそちらに、静かなところは図書館にという、図書館内でのゾーニングではなく、複合化施設でのゾーニングというのもできるわけです。そのための複合化施設であるので、その辺はもっと考えていければいいのではないかと思います。それと、南、辻堂、大庭市民図書館を運営している NPO の評価が高いと言っていました。川崎市では指定管理者制度を導入するということになり、住民の方と非常に揉めているわけですが、私は指定管理者制度うんぬんというよりも、先ほど申し上げた図書館としての基本的なことが出来るのであればどっちでも構わないと思っています。というより直営で行っている図書館は、私がやったほうが良いと言ったところが、できていないことが本当に問題であると考えています。こういうことをやっているから、シリウスの指定管理をやった TRC のほうが良いということになるわけで、シリウスは賑わいの創出をしているだけであり、地域資料のデジタル化や学校との連携だとか、市民が調査できて探して発信できるようになるまではやっていません。ですので藤沢市はシリウスを簡単に超えることができます。施設面であれば良いものができますし、ソフト面のところでもっていければ、全国から来るようなところになると思います。なにより最近はいろいろなところに行っていますが、小学校、中学校で GIGA スクールを進めているのに公共図書館の予算が減らされているという話がされていますけれども、国の話として矛盾しているのが、小学校が DX、GIGA スクールであるならば、図書館も DX に対応できるので図書館の運営費や資料費

を減らすべきではない。図書館で住民の情報リテラシー能力が増せば皆が起業化したり、公共サービスの利用が少なくなつて、自分でやるということになって、経済効果が大きい。本当に図書館が機能すれば経済効果は非常に高いということを書いていただきたいと思います。もう一つは人のつながりということを書いていましたが、語り場というものをご存じの方はいらっしゃいますか。語り場という小学生や中学生が遊んだり勉強したりする場所があります。中高生をターゲットにして語り場が運営している b-lab という施設が文京区にあります。ここでは小中学生にやってはいけないことはなく、なんでもやってもいいというもので、その中で小中学生が自主運営しており、カウンターなどでそこを卒業した人または語り場で雇用された人たちが見守っているというところがあります。音楽のスタジオでドラムのセットがあつたり、ギターがあつたり、管弦楽のものがあり、ダンスホールがあります。そういうところが全国でいくつかあるそうです。この間そこを見学してお話をしましたが、長岡市というのが変な市役所を作って、事務室と住民が交流するような構造の建物を作ってしまったのです。そこの方たちが文京区の b-lab を見てきて、こんどは図書館をくっつけるという話をしていたそうです。今は既存のものもあり、先にいっているものもあり、そういったものを組み立てていって図書館が何かインテグレートするというところのいい機会なのかなと思っています。そうすると15年先の湘南台など全体的な中で、人とのつながりなど、私は文化芸術というよりも、人とつながるといふその上に行くものを打ち出すべきだと思います。そういったところから考えていくとペDESTリアンデッキもできてくるし、学校の先生の教材も、文書館の資料も出てくるのではないかと考えました。私からお話させていただきましたが事務局のほうから意見や感想をいただけますでしょうか。

事務局
(市川館長)

皆さん意見ありがとうございました。すべての質問答えられるかわかりませんが、まず人と人とのつながりという点についてお答えします。この部分については、DXや複合化を特徴としてやっていくとは言っていますが、DXはあくまでも手段であり、やはり社会教育施設であるため、非接触でできることについては機械でやりますが、その分受付で人との関わりを求めている人については当然やっていきますし、レファレンス機能にも時間を割いていけるのかなと思います。そういった中でDXによってシームレス化ができます。これは図書館の本をどのフロアにも持っていくことができるようになりますので、図書館の本を、情報を媒介にして、話し合いの中

で解決をしていくというイメージをしています。ですので静かな図書館というよりは賑やか図書館であり、その中でも静かに本を読みたい人はそのようなスペースを提供していきたいと思います。やはり今後の図書館を考えたときに文書館も入ってきますので、あえて文書館と図書館が同じことをやるのではなくて、地域資料については図書館と文書館が重なる部分での効率化を行い、図書館も今年から電子図書を導入していきますので、藤沢市民、特に子どもたちが郷土資料にいつでも触れられるような環境を作っていく必要があります。そういった意味では郷土資料を筆頭にデジタルアーカイブといったことも当然取り組んでいかなければいけないと思っています。このあいだ図書館と文書館、文化芸術、郷土歴史とで最新のデジタルアーカイブの事例について勉強会をしました。それを見る限りでは、図書館、文書館に限らずシティプロモーションの分野など、藤沢市を紹介する部分での活用も十分図れるものだと思います。今はMLA連携などの言い方もしますが、デジタルアーカイブについて取り組んでいきたいと思っています。その他にも課題解決型図書館とよく言われますが、図書館の資料を自分たちの活動に活用していただき、役に立つ図書館を作っていきたいと思っています。郷土資料や新たな情報の資料のリモート化、電子図書の延長としてデータベースを自宅で見ることができるといったこともこれから考えていかなければならないと思いますし、役に立つ図書館を作っていく、誰もが情報に触れられる図書館を作っていく必要があると思います。そのためにDXを活用したということですので、DXによって人と人との関係が断ち切られるわけではなく、むしろ人と人とを結びつける図書館を作っていけたらいい図書館ができるのかなと考えているところです。

長谷川委員長

ありがとうございます。他の委員からも何かありますでしょうか。また小泉さんからも補足説明などありますでしょうか。

事務局
(小泉主幹)

改めて図書館は親和性があり、複合化施設ということで、どこともコラボすることができると思います。それ故に複合化の意義やどこまでできるのかなど、いい話ばかりではなく逆に複合化によって悪いところも出てきてしまうのではないかと考えてしまいました。委員の方からもお話がありましたが、図書館はあれだけの集客力がありますので、子育てしている方とか高齢の方も含め、また行こうと思えるような図書館を考えていきたいと思っています。

事務局
(市川館長)

あともう一つ、これはまだ決まったことではなく、図書館として要求していきたいと思っていることが、絵本作家のかこさとしさんが藤沢とゆかりのある人ですので、ぜひかこさとしさんの常設コーナーを作っていきたいと思っています。かこさんの本は生活すべてであり、遊びから生きる力まで、食事であったり、健康であったり、全ての分野に本を作られています。そのため、かこさんのコーナーを作ることによって、子どもたちがワークショップ的な形でボランティアの方たちと一緒に、何かそこで生きていく力を身につけられるようなコーナーを作りたいと考えています。かこさんとゆかりのある他の市では、かこさとしコーナーなどのコーナーを設けていたりします。藤沢としても晩年藤沢で過ごされましたので、ぜひかこさんのコーナーを作って、様々な作品を展示していきたいと思います。

長谷川委員長

ありがとうございます。他の委員方から何かありますでしょうか。中田委員どうぞ。

中田委員

ソフト面のところで一つあります。南市民図書館再整備に向けた総合市民図書館の方針の中にデータベースを充実しと書かれています。データベースを充実させるだけではなく、それを活用できるように教える人がいないと難しいかなと思います。当館でもデータベースが入っていますが、それを本当によく使って結果を導き出すというのは難しく、複数入れるとすればそれを活用して導き出し、また今後それを利用する人を考えると、それを教えてくださる方を配置してみたいのではと思います。

長谷川委員長

他の委員の方はいかがでしょう。それでは皆様からの意見をいただきました。今回の図書館協議会は皆様の任期の最後となりますが、最後にあたって、南市民図書館、複合化についての意見を聴取してもらいました。委員の皆様もありがとうございます。この2年を振り返って何かありますでしょうか。藤平委員お願いいたします。

藤平委員

この2年間は図書館が大きく変わるための準備をしていた2年であって、議題がとても大きかったと思いました。そのようなところで参加できたのは嬉しかったですし、今日のように小さな希望などを伝えることができたのは、とても良かったです。2年間常に話しやすい協議会であり、それは感謝申し上げます。良い経験になったと思いますし、今後も個人的にも図書館のことについては気に留めて勉強していきたいと思いま

した。

長谷川委員長 ありがとうございます。市川館長の雰囲気良かったと私は思います。短期間ではありましたが多鹿委員いかがでしょうか。

多鹿委員 本当に何もわからないなかでしたが、こんなにも藤沢市の図書館が変わり目であり、大きな計画が立てられているということで将来的な希望が持てました。ありがとうございます。

長谷川委員長 そうですね。本当に学校のほうからもっともっと要望を出すべきです。とにかく要望がこない限りは図書館は動けませんので、どんどん要望を出していただければと思います。一市民よりは学校から出てくることのほうが大きいです。山田委員からも一言お願いします。

山田委員 人が集う場所を社会教育という観点からみると、図書館が一番多く人が集まる場所であると考えています。情報を吸収することもできますし、人と出会うこともできる。一方で今回コロナのこともありましたので、アプローチが難しい中、どの方法がいいのか探っている期間もあったり、図書館に関わるこれの前段階として、点字図書館の調査をさせていただいたという背景がありますが、やはりあまねく人が使える場所としてどうあるべきなのかということを考えながら2年間携わらせていただけたのは非常に私の中でも大きかったと思います。またこれからどのように社会教育含めて関わっていこうかなという良い勉強機会をいただけたと思います。ありがとうございます。

長谷川委員長 ありがとうございます。山田委員のほうからも出ましたが、藤沢市の点字図書館は全国に類を見ない規模のところなので、もっとだしたほうがいいです。図書館の中に点字図書館があるのは、高知のオートピアと豊島区の図書館にあります。それ以外はほとんど見当たらないものであり、これはすごいことであると思います。他の委員の方はよろしいでしょうか。日下部委員お願いします。

日下部委員 2年間何もわからない中で終わってしまったような感じがですが、これからの子どもたちが本を大好きになって、いつでも行くことができるという環境を作ってあげられることができ、複合化が本当に良いものであるかわかりませんが、これから

の子どもたちのために少しでも過ごしやすい図書館をつくってほしいと思います。ありがとうございました。

長谷川委員長 ありがとうございます。他の委員の方よろしいでしょうか。富田委員どうぞ。

富田委員 ずっとコロナの2年間であったということで、最初のころ私はおはなし会がいつできるようになりますかという質問ばかりをさせていただいたと思います。長後では月1回3組までですがおはなし会が再開され、子どもたちも毎月楽しみにしている状況です。コロナになって人が集まれない中で、どうやって本と触れ合っていこうかなどを考える機会であったと思います。長後の子育てメッセで今年度から実行委員長をやっていますが、そこでおはなしのボランティアの人たちがパネルシアターなどやっていただいたり、図書館の人が本を持って来ていただいて、休憩ついでに読んでくださいといったコーナーを作ったりなどがありました。今後も地域の子育てイベントなどで少しでも本に触れられるチャンスを作っていけたらと思いますので、ご協力いただけたらと思います。2年間ありがとうございました。

長谷川委員長 ありがとうございます。中田委員からもいかがでしょうか。

中田委員 2年間ありがとうございました。隣の鎌倉市の図書館に勤めておりますので藤沢市には日々助けられながら業務を行っております。また鎌倉市の市民も相互利用の関係で藤沢市の図書館を利用させていただいています。実際この図書館協議会の中で、館長ほか皆様のお話を聞いて藤沢市の図書館がすごいと感じました。それについて鎌倉のほうに戻ってこのようにやったほうがいいのかなどの提案を図書館で行っています。私自身のできることをできるだけ藤沢の図書館にも還元していきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

長谷川委員長 ありがとうございます。私からも一言、私はここしばらく色々な会合に出ていて図書館はどのようになるのかというクエスチョンマークが大きかったですけれども、やはり今回皆さんのお話と市川館長のお話をきいていると、私が変に心配していただけなのだわかりました。藤沢市の図書館の未来は明るく、住民の未来は明るいし、こういった図書館協議会に参加していただいて、その中で図書館としての役割を深くご理解いただける、そして私の皆さんと話をすることによって図書

館についてより深く考えることができました。この2年間大変勉強になりました。ありがとうございました。小泉さん市川館長からの一言ずつお願いいたします。

事務局
(小泉主幹)

2年間ありがとうございました。私も異動してきてからコロナで閉館をずっと見てきて、図書館の本来の働きは初めのころは見ることはできませんでしたが、逆にコロナだからこそ図書館が必要と思っている人が多いと感じました。図書館はいつでも、だれでも図書館を利用して充実した生活をしているということを身に染みてこの業務をやって感じましたので、今後は今日いただいたご意見なども参考に、やはり藤沢市だねと言われるような図書館をつくっていきたいと思います。これかもご協力のほどよろしくをお願いいたします。

長谷川委員長

ありがとうございます。市川館長からもどうぞ。

事務局
(市川館長)

皆さん2年間ありがとうございました。私自身も図書館の館長になり4年目になりました。それまでは図書館という職場で働いたことがなく、図書館協議会の皆様に支えられながら図書館について自分自身も勉強して、やっと図書館の目的や意義がなんとなくわかってきたところです。その中で図書室のオンライン化ができたということが大きなことであり、これによって図書館図書室の在り方がこれから変えていけるのかなと思います。コロナ禍ということで実際に会って話をしたり、懇親会などの活動はできませんでしたが、その分濃密な会議ができたかなとも思います。これからも図書館の応援団として図書館を叱咤激励していただければと思います。これからもどうぞよろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

長谷川委員長

ありがとうございます。それではこれで今回の協議会を終了とさせていただきますので事務局にお返しします。

事務局

ありがとうございます。5月と6月の事業報告につきましては資料をお配りしていますので後ほどご覧ください。以上をもちまして図書館協議会を終了させていただきます。